

初めて鬼北町に来させていただきました。私たちが住んでいるところよりも自然が豊かでとても過ごしやすい町でした。また、とても優しい方たちばかりでした。

民泊は生まれて初めての体験でしたが、ご家庭の方とさまざまな話ができ楽しかったです。そして、私たちがゆっくり過ごせるように、気をつけてくださいました。

民泊は初めて会った人たちとコミュニケーションがとれる、とても良い体験だと思いました。



兵庫県選手団  
村西 佐織さん・瀧下 奈央さん

選手団を明るくお出迎えできるよう、会場の装飾を工夫しました。特に、ハロウィンの時期なので、「HALLOWEEN」を「HALLOWIN」に変え、小倉民泊協力会全員で選手団の勝利を祈願しました。

選手を受け入れる前は不安の方が大きかったですが、実際に受け入れてみると、選手が子供を抱っこしながら就寝するほど、仲良くなっていました。みかんが好きだという選手には、冬に送る約束までしました。もっと一緒に過ごしたかったです。



小倉民泊協力会 歓迎班・家庭班  
芝 辰也さんご家族

国体に向けての準備期間は長かったです。始まってからはあっという間の2日間でした。お互いにやったりリラックスできてきたかなというところでお別れとなり、とても寂しいです。

会場で、他の応援の様子を見たり、拠点施設付近の装飾の様子を見たりすると、それぞれの協力会の特色が現れており、感動しました。民泊を通して、地区の人とも選手たちとも交流を深めることができ、良い経験となりました。



小倉民泊協力会 会長  
芝 修次さん

富山県選手団の皆さんをお迎えることが決まり、美味しい食べ物に恵まれた富山県で暮らす皆さんに喜んでもらえるような料理を作れるかプレッシャーでした。しかし、残さず食べるどころか、おかわりまでしていただき、それが嬉しくて、調理班一同、毎日頑張れました。

調理班の中には、家庭班を兼任している方や、介護をしている方もおられました。これは、家族の協力があつたからこそ、成し得たことだと思います。感謝しています。



下鍵山1 民泊協力会調理班の皆さん

選手の皆さんと上手くコミュニケーションが取れるか不安でしたが、彼女たちの方から気さくに話しかけてくださり、その不安は一瞬でなくなりました。また、選手の皆さんの気持ちの良い挨拶に、毎日元気をいただきました。

最終日には選手の皆さんから「まだ帰りたくない」と言われ、言葉にならないほど嬉しかったです。

我が子も遠征の時にたくさんの方にお世話になっていますので、今回、恩送りできて良かったです。



下鍵山1 民泊協力会 家庭班  
宮崎 友明さんご家族

下鍵山の人たちは初対面とは思えないほど親しみやすく、本当の家族のようでした。朝、散歩をしていると、地元の中学生など地域の方々が声をかけてくださり、とても嬉しかったです。また、毎日美味しい食事を提供してくださった調理班の皆さんに感謝しています。

初めて民泊を体験しましたが、ホテルでは経験できないふれあいがたくさんできました。「ホテルではなく、民泊で良かった」と心から思います。また下鍵山に来たいです。



富山県選手団  
山本 美憂さん・藤井 寧々さん  
宮本 雅也監督